

2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年2月10日

上場会社名 櫻護謨株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5189 URL <http://www.sakura-rubber.co.jp/>
 代表者(役職名) 取締役社長 (氏名) 中村 浩士
 問合せ先責任者(役職名) 常務取締役総務部長 (氏名) 遠藤 聡 (TEL) 03-3466-2171
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	5,101	6.5	△77	—	△95	—	21	—
2022年3月期第3四半期	4,789	△19.9	△296	—	△308	—	△202	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 29百万円(—%) 2022年3月期第3四半期 △190百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	21.85	—
2022年3月期第3四半期	△209.75	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	13,839	7,449	53.8
2022年3月期	14,375	7,444	51.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 7,449百万円 2022年3月期 7,444百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	25.00	25.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2023年3月期の期末配当予想につきましては、現段階で未定です。

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,500	7.1	170	—	150	—	90	—	93.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期3Q	1,012,000株	2022年3月期	1,012,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	44,492株	2022年3月期	44,492株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期3Q	967,508株	2022年3月期3Q	967,563株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書(第3四半期連結累計期間)	6
四半期連結包括利益計算書(第3四半期連結累計期間)	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ウィズコロナの下、回復傾向は継続しておりますが、長引くウクライナ情勢問題、欧米諸国のインフレと金融政策、円安の影響などから原材料価格やエネルギー価格は上昇し、物価上昇が続いております。また、強まる人手不足感や海外経済の下振れ懸念を抱え、先行きは楽観できない状況で推移しております。

このような状況のもと当社グループといたしましては、引き続きお客様に満足される製品・サービスの提供により、安心・安全な社会の維持に貢献するべく事業活動を行っております。また、前期は赤字決算となったことから、収益性の早期回復を目指し、現在、生産体制の見直し、原価構造の改善、売価の再設定等を進めております。

その結果として、売上高は5,101百万円（前年同期比6.5%増）、営業損失77百万円（前年同期は296百万円の営業損失）、経常損失95百万円（前年同期は308百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益21百万円（前年同期は202百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

売上高は、消防・防災事業、航空・宇宙、工業用品事業ともに前年同期と比べ増加となりました。なお、消防・防災事業では、顧客予算との関係から売上高は下期に集中する傾向にあります。

利益面は、原材料価格並びにエネルギーコスト上昇の影響は大きいものの、生産体制の見直しの進捗と、航空・宇宙、工業用品事業の受注回復傾向を受け、工場稼働率が向上したことから、前年同期に比べ売上原価率が改善し売上総利益は増加しました。一方、ウィズコロナの下、営業活動の正常化に伴い、販売費及び一般管理費は増加しました。その結果、当第3四半期も営業損失並びに経常損失となりましたが、前年同期比では売上総利益の改善効果もあり、営業損失並びに経常損失は低減しております。

特別損益では、経営資源の有効活用及び財政基盤の強化を目的として、不動産賃貸事業の賃貸住宅1棟を売却し、固定資産売却益177百万円を計上しております。また、2022年10月31日を退職日とする希望退職者募集の結果、割増退職金等の事業構造改善費用32百万円を特別損失に計上しております。

これらの要因により、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期の損失から利益へ転換いたしました。

第3四半期連結結果計期間における報告セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

<消防・防災事業>

消防ホース・消火栓ホースともに原材料価格の高騰が考慮され販売単価は上昇しておりますが、消火栓ホースはコロナ禍の反動から点検交換需要増となった前年同期と比べ、販売数量が減少しております。資機材では、コロナ禍の世界的な半導体不足から消防車両の供給遅れも顕在化しており、消防車両積載向け資機材は販売が減少しておりますが、その他の消防防災用品の販売は前年同期を上回っております。利益面は、例年、売上高が下期に集中することから固定費を吸収できず、損失の計上となっております。その結果、売上高2,436百万円（前年同期比2.0%増）、セグメント損失（営業損失）は103百万円（前年同期は158百万円のセグメント損失）となりました。

<航空・宇宙、工業用品事業>

航空・宇宙部門は受注回復傾向にあり、当第3四半期までの販売は、エンジン部品及び配管類などの金属製品、シール材などのゴム製品ともに前年同期に比べ増加となりました。工業用品部門では、原油貯蔵施設等の点検改修が活発になっていることからタンクシール交換の販売は大幅に増加しております。子会社における金属加工品も前期から継続して高水準な販売を維持しました。利益面は、販売の増加、生産体制の見直し、工場稼働率の向上などを要因に、前年同期の損失の計上から当第3四半期では利益の計上へ改善しております。その結果、売上高は2,287百万円（前年同期比12.9%増）、セグメント利益（営業利益）は157百万円（前年同期は28百万円のセグメント損失）となりました。

<不動産賃貸事業>

ウィズコロナの下、売上高は順調に推移しておりますが、利益面では管理コストが増加しました。なお、賃貸住宅1棟を売却いたしました。第3四半期までの損益に重要な影響はありません。その結果、売上高は377百万円（前年同期比0.4%増）、セグメント利益（営業利益）は98百万円（前年同期比5.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期連結会計期間における流動資産は9,363百万円（前連結会計年度末比163百万円減）となりました。主として、棚卸資産が763百万円増加した一方、現金及び預金が381百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が825百万円それぞれ減少したことによるものです。また、固定資産は有形固定資産の取得、売却等により4,476百万円（前連結会計年度末比372百万円減）となりました。

この結果、資産合計は13,839百万円（前連結会計年度末比535百万円減）となりました。

② 負債

当第3四半期連結会計期間における流動負債は3,681百万円（前連結会計年度末比469百万円減）となりました。主として、支払手形及び買掛金が703百万円減少したことによるものです。また、固定負債は2,708百万円（前連結会計年度末比71百万円減）となりました。

この結果、負債合計は6,389百万円（前連結会計年度末比540百万円減）となりました。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間における純資産は7,449百万円（前連結会計年度末比4百万円増）となりました。主として、親会社株主に帰属する四半期純利益21百万円による増加と剰余金の処分24百万円による減少が要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の業績予想につきましては2022年5月13日に公表いたしました通期の連結業績予想の内容に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,355,720	2,973,841
受取手形、売掛金及び契約資産	3,062,820	2,237,470
電子記録債権	547,332	649,521
商品及び製品	96,114	374,431
半製品	517,151	600,792
仕掛品	1,284,748	1,599,813
原材料及び貯蔵品	571,528	658,167
未収還付法人税等	9,103	-
その他	85,945	271,927
貸倒引当金	△3,425	△2,694
流動資産合計	9,527,040	9,363,272
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,698,317	1,596,608
土地	1,715,808	1,490,366
その他（純額）	545,454	464,322
有形固定資産合計	3,959,580	3,551,297
無形固定資産	26,158	23,469
投資その他の資産		
投資有価証券	273,855	272,088
その他	593,604	629,292
貸倒引当金	△5,001	-
投資その他の資産合計	862,458	901,380
固定資産合計	4,848,198	4,476,147
資産合計	14,375,238	13,839,419

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,524,554	821,415
電子記録債務	179,362	552,898
短期借入金	940,000	930,000
1年内償還予定の社債	40,000	230,000
1年内返済予定の長期借入金	758,356	640,929
未払法人税等	28,799	6,999
賞与引当金	155,426	73,663
その他	523,925	425,311
流動負債合計	4,150,423	3,681,217
固定負債		
社債	240,000	30,000
長期借入金	1,455,735	1,581,268
役員退職慰労引当金	221,100	234,843
退職給付に係る負債	553,619	556,477
資産除去債務	12,848	13,070
その他	296,798	292,914
固定負債合計	2,780,101	2,708,574
負債合計	6,930,524	6,389,791
純資産の部		
株主資本		
資本金	506,000	506,000
資本剰余金	285,430	285,430
利益剰余金	6,858,041	6,854,995
自己株式	△173,688	△173,688
株主資本合計	7,475,783	7,472,737
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	83,012	81,549
退職給付に係る調整累計額	△114,082	△104,659
その他の包括利益累計額合計	△31,070	△23,109
純資産合計	7,444,713	7,449,627
負債純資産合計	14,375,238	13,839,419

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	4,789,501	5,101,729
売上原価	3,963,203	3,973,301
売上総利益	826,298	1,128,428
販売費及び一般管理費	1,123,105	1,205,725
営業損失(△)	△296,806	△77,297
営業外収益		
受取利息	7	8
受取配当金	8,174	8,907
受取地代家賃	10,690	10,678
貸倒引当金戻入額	1,306	1,166
その他	7,580	5,620
営業外収益合計	27,759	26,381
営業外費用		
支払利息	29,480	31,123
社債利息	554	484
為替差損	5,624	10,087
その他	4,111	2,663
営業外費用合計	39,771	44,358
経常損失(△)	△308,819	△95,274
特別利益		
固定資産売却益	38,442	177,714
特別利益合計	38,442	177,714
特別損失		
固定資産除売却損	892	5,657
事業構造改善費用	-	32,862
特別損失合計	892	38,520
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△271,269	43,919
法人税、住民税及び事業税	24,699	29,443
法人税等調整額	△93,021	△6,666
法人税等合計	△68,321	22,777
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△202,947	21,141
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△202,947	21,141

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△202,947	21,141
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,714	△1,462
退職給付に係る調整額	17,816	9,422
その他の包括利益合計	12,102	7,960
四半期包括利益	△190,844	29,102
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△190,844	29,102
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	消防・防災 事業	航空・宇宙、 工業用品事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
一時点で移転される財	2,387,852	2,025,261	75,127	4,488,242	—	4,488,242
一定の期間にわたり移転される財	—	—	—	—	—	—
顧客との契約から生じる収益	2,387,852	2,025,261	75,127	4,488,242	—	4,488,242
その他の収益	—	—	301,259	301,259	—	301,259
外部顧客への売上高	2,387,852	2,025,261	376,387	4,789,501	—	4,789,501
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	2,933	2,933	△2,933	—
計	2,387,852	2,025,261	379,320	4,792,434	△2,933	4,789,501
セグメント利益又は損失(△)	△158,538	△28,488	104,194	△82,832	△213,974	△296,806

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△213,974千円には、各報告セグメントに配分されていない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	消防・防災 事業	航空・宇宙、 工業用品事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
一時点で移転される財	2,436,705	2,287,230	75,769	4,799,705	—	4,799,705
一定の期間にわたり移転される財	—	—	—	—	—	—
顧客との契約から生じる収益	2,436,705	2,287,230	75,769	4,799,705	—	4,799,705
その他の収益	—	—	302,023	302,023	—	302,023
外部顧客への売上高	2,436,705	2,287,230	377,793	5,101,729	—	5,101,729
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,436,705	2,287,230	377,793	5,101,729	—	5,101,729
セグメント利益又は損失(△)	△103,324	157,775	98,327	152,778	△230,075	△77,297

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△230,075千円には、各報告セグメントに配分されていない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。